

令和五年度（2023年度）修了式講和

今日、3月22日は令和五年度の修了式です。タイトルは、ラ・フォンテーヌの寓話1996年秘められた宝です。

皆さんにどんなお話をしようかと考えていたとき、私が初めてユネスコの学習の四本柱に触れたときのノートが出てきました。懐かしさを感じながら読み直してみても、気が付いたことがいろいろありました。今日は、その気づきについてお話します。

私がいつも皆さんに「新田版学習の四本柱」について、お話をしている理由です。

結論から言うと、皆さんが自分に自信を持ち、自分らしく生きるために学び続け、自分を勇気づける言葉を大人になるまでに見つけて欲しいからです。

このような言葉を座右の銘と言います。

私の座右の銘は、「三人寄れば文殊の知恵」です。ノートには、学習の四本柱が箇条書きにされていましたが、「共に生きることを学ぶ」の横には、小さな字で「三人寄れば文殊の知恵」と書き込んでいました。

今思い返すと、「共に生きる」のフレーズを聞いた瞬間、幼いころ母から聞いていた「三人寄れば…」の諺が甦ってきたのです。それは、教育という私の大切な仕事と、親の教えが結び付いた瞬間のように思います。

この「三人寄れば文殊の知恵」とは、一人で考えていても、いい考えが浮かばないときでも、三人が集まって考えればいい知恵が生まれるという意味の諺です。皆さんが日々、様々な学習で取り組んでいる協働学習と同じことです。

ノートの端に英語が書いてありました。読み返してみると、「二人の頭脳は一人よりも良い」という意味の言葉でした。国際教育を担当していたころ、通訳の方から「英語にも『三人寄れば…』と同じ意味の諺があるよ」と、教わりました。

こんな表現も教えてもらいました。「4つの目は2つの目よりもよく見える」という諺です。皆さんには、英語の諺の方が馴染みやよく解りやすいかもしれませんね。

諺には、私たちが生きていく上で参考になる教えや戒めが詰まっています。また、世界のどの国にもある人生の指針になる表現です。いわば、「世界に通じる先人からの贈り物」です。

「共に生きることを学ぶ」という文言が、「三人寄れば」の諺に繋がった瞬間は、私が「ユネスコの学習の四本柱」は「世界に通用する学びの羅針盤」であることに確信を持ったときでした。それからは、私たちがオリジナルの学習の四本柱を創りたいと願うようになりました。

次に、「知ることを学ぶ」に関係する諺や慣用句を紹介します。江戸時代より前に使われていた諺ですが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」というものがあります。何となく意味は解りますね、解らないことをそのままにしておいてはいけないという戒めです。

また、古代のエジプトから伝わってきた「学問に王道なし」という諺があります。エジプト王・プトレマイオスがユークリッドという数学の先生に「数学を勉強するのにあなたの本を読むより、簡単な方法はないのか」と尋ねました。そのとき、ユークリッドは、「学問に簡単な方法はありません。誰でも学習を積み重ねていくから理解できるようになるのです」と答えました。この諺は「学問を修めるのに簡単な方法はないという戒めです。

しかし、学習は自分の宝となる大切なものですから、理解できないことや解らないことをほったらかしにしておいてはいけません。

いま皆さんは、どんな学習でも答えを知るだけではなく、学び方を学んでいます。またそのために、自分の疑問を大切に質問する力を高めながら「知ることを学ぶ」学習に取り組んでいます。

「為すことを学ぶ」学習で大切なことは、どんなことでしょうか？ 諺を利用して考えてみましょう。

日本には「習うよりも慣れろ」をいう諺があります。意味は「教えられるよりも自分で経験を重ねる方が身に付く」という喩です。英語では、「慣れれば簡単にできる」という意味の表現で、「練習は完璧を作る」とも訳されています。日本語と英語では表現に違いはありますが、繰り返して行動するから「慣れる」のですね。

繰り返して行動するためには、何が大切かということ、「自分から進んで」という自主性ですね。もう一つ大切なことがあります。「七転び八起き」という諺を使って考えてみましょう。

「七転び八起き」とは、何回失敗しても諦めずに挑戦を続けることを意味しています。英語では、「希望の泉は枯れず」と表現されています。綺麗な言葉ですね。自分がやろうと決めていても、うまくいかないことがあります。そんなとき、諦めてしまうと希望の泉は枯れてしまいます。諦めない心が大切ですね。

今日の話の結びに「人として生きることを学ぶ」学習に必要なこととお話します。この学びに必要なことや大切なことは、「振り返り活動」を行うことでしたね。昔から「人の振り見て、我が振り直せ」という諺が多くの人に使われていましたが、皆さんは、もう既に、自分の言動を自分自身で振り返る習慣を身に付けています。

みなさんは、今までにいろいろなことに挑戦してきました。その挑戦はうまくいった時もあれば、実現しないこともありましたね。このことに対して、「失敗は成功のもと」という諺があります。英語の表現では、「失敗は成功を教えてくれる」という内容です。

この諺を知らなくても皆さんは、SDGsやESDの学び、また各教科等の学びでも、身に付けた振り返り活動を活用して、改善点を見つけていました。

私を成長させてくれた諺は「三人寄れば」です。もう一つ私が大切にしている諺があります。「玉磨かざれば光なし」です。この諺は、「どんなに才能があっても努力を惜しめば成長が止まってしまう」という意味を持っています。皆さんは自分自身を磨く術を身に付けています。それが自分自身を振り返り、改善点を見つける活動です。

いつも修了式では来年度の目標を立ててくださいとお話していましたが、自分が大切にする諺を探すのも目標を作ることに繋がります。また「自分自身を振り返る活動」は、皆さん一人ひとりが持っている大きな大きな財産です。

この四月に進級する皆さんが自分の目標を達成するための「振り返り活動」を大切にす活躍してくれることを期待しています。